

令和5年度 学力向上指導改善プラン

つつじが丘小学校長 村岡 智行

学校教育目標		学ぶことを楽しみ、人とつながって生きるつつじっ子の育成		4月		2～3月	
推進主体		研究推進担当・生徒指導担当・新学習システム推進教員を中心に学力向上		学力向上に向けての重点的な目標		年度末評価	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)		(成果目標達成のための具体的な手立て等)	
						(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
						評価	
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語・算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	<ul style="list-style-type: none"> ○学校司書や担任との連携で低学年を中心に、年間を通して読書活動への取り組みが深まった。 ○朝の読書タイムや図書ボランティアによる読み聞かせなどの継続した取り組みによって、児童の読書への関心が高まりつつある。教室では隙間時間に読書をしたり、休み時間に図書室を利用したりしている児童もみられる。 ○読書通帳で100冊達成する児童は昨年度より増えている。 ◆全校生への生活アンケートでは、「学校の授業時間以外でどれくらい読書をしていますか?」という問いに対して、「30分未満」が55%、「30分以上1時間以内」が7%と半数以上の児童に短時間ではあるが読書する習慣が身についていると思われる一方で、「しない」は30%の児童が答えている。本校が進める読書時間の目安を達成しているとは言えず、課題がある。 	○読書をする時間を昨年より増やす。(1・2年15分以上、3年以上30分以上の児童が50%)	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書タイムを活用して読書習慣を確立させ、本に親しむ機会を増やす。 ・学校司書を中心に、本の選び方指導や本の読み聞かせ、図書館借りの発行などを通じて読書の楽しさを伝える。 ・読書通帳を活用して読書の質・量をともに増やし、数多く読書をした児童を表彰することによって、読書を一層奨励する。 ・図書室や学年フロアなど、本に親しめる環境を整備し、読書の楽しさを一層味わえるようにする 		
		算数	<ul style="list-style-type: none"> ○国語など説明文での学習で、文章の組み立てがわかり、紹介カードや新聞などに書きたい情報をまとめたり、図や表を効果的に用いて表現したりできるようになっている。 ○高学年では、学習したことをタブレットのアプリを用いてまとめる機会を意図的に仕組むことにより、自分の考えを言葉や文章でわかりやすく表現しようとして、自分の考えを伝えるために効果的な資料を取捨選択したりするなど、相手意識を持ちながら取り組もうとする姿が多く見られるようになった。 ◆あのねようや日記、視写等の日々の取り組みにより、少しずつ書くことに対する抵抗はなくなりつつあるが、低学年では平仮名やカタカナの使い方が不十分だったり、中・高学年では、段落相互の関係や題名と本文のつながりなどを意識しながら読み取り、自分の言葉で要約したりする力が弱い。 	○学年の発達段階に応じた書く力の向上を図る。 ○算数の思考過程を記述する問題の平均正答率が全国平均をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年から日記や視写等の活動を通して、語彙力、表現力を高め、書くことに対する抵抗感をなくす。 ・分らない言葉は、辞書ですぐに調べさせる機会を多くとり、辞書を使う習慣をつける。 ・設定された字数や目的に合わせて、情報を取捨選択し、要約する学習を重ねる。 ・書いた文章を推敲する時間を設定し、自分の文章を読み直すことを習慣化させる。 ・図表やグラフなどを用いた文章や新聞記事を活用し、それらを用いる意図や効果について理解させるとともに、説明的な文章を書く際は、図表を効果的に活用できるように指導する。 		
		ICT機器を効果的に活用した取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○算数科を中心に効果的なICTの活用方法を検証している。どの教員もタブレットなどを使うとすると意識が高まっているのが窺える。また、ICTの活用は算数科にとどまらず、どの教科でも活用しようとしている。 ◆タブレットを用いて、児童一人ひとりの実態に合わせた学習をすすめることで、基礎基本の定着を図る。 ◆タブレットなどのICT機器を用いて、児童一人ひとりの実態に合わせた学習をすすめる、履修を残すことで、基礎基本の定着を図っていく。 	○校内アンケートで「算数が好き」という児童85%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・「タイが生まれる楽しい授業」をテーマに、子どもが主体的に学習に取り組む授業の仕組みを研究する。 ・教育環境整備やつつじが丘小学校スタイルのノート作りを推進すると共に、相互評価を充実させる。 ・「つかむ」「考える」「深める」「ふり返る」の授業の流れの可視化を図る。 ・課題提示の仕方を工夫し、児童からめあてを引き出すことで主体的な問題解決につなげる。 ・自分の考えを工夫してまとめたノートを「いいノート」として掲示する。ノートコンテストを行い、相互評価の場を持つことを通じて、学習意欲を高める。 ・タブレットPCなどのICT機器の効果的な活用方法について研究を進める。 ・ミラシードを活用した協働的な学習の充実、情報の整理などを学習に位置付け、思考の可視化、操作化を促す。 		
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ◆漢字の読みかえ、使い方に課題があり、音に当てはめた文字を書く傾向がある。(経年) ◆各教科の単元テストでも、記述式で回答する設問において、学年が上がるにつれて無回答の児童が増える。 	○聞き方名人、話し方名人を各クラスに掲示して、どの学年でも、聴き合い学び合うクラス作りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい学習姿勢を目指し、キッピー体操を週2回行う。 ・学習の準備について指導・点検を行い、定着させる。 ・「目を見て話を聴く」、「反応しながら聴く」「体を止めて聴く」「手遊びをしない」など、聴く態度の徹底を図る。特に低学年では、望ましい聴き方ができていない児童を減らすことで、クラス全体の聴く態度につなげていく。 ・中学校区での合同研修を実施し情報や取組等について共通理解を図る。 ・がんばり学びタイム指導員による個別支援を行い、学習習慣の定着につなぐ。 			
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ○高学年では、学習したことタブレットのアプリを用いてまとめる機会を意図的に仕組むことにより、自分の考えを言葉や文章でわかりやすく表現しようとして、自分の考えを伝えるために効果的な資料を取捨選択したりするなど、相手意識を持ちながら取り組もうとする姿が多く見られるようになった。 ◆文字を書くことに関する課題の多い児童の学習用具の置きか、筆算の持ち方、学習習慣など、学習環境・授業環境の整備を図る。 ◆あいつつ読書をはじめ、朝のねようや日記や視写等の日々の取り組みにより、少しずつ書くことに対する抵抗はなくなりつつあるが、低学年では平仮名やカタカナの使い方が不十分だったり、中・高学年では、段落相互の関係や題名と本文のつながりなどを意識しながら読み取り、自分の言葉で要約したりする力が弱い。 	○児童の家庭等での学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の方法を指導し、高学年においては自主学習を家庭学習に取り入れる。 ・生活アンケートの結果から、ゲーム等に費やす時間や一日の過ごし方について、家庭でのルールをしっかりと決めることの大切さを知らせる。 ・家庭と連携しながら情報モラル研修やタブレット研修などを行い、よりよい取り組み方を継続して啓発していく。 ・保護者の協力を得ながら、読書や家の仕事、運動についても意識して取り組めるように啓発する。 児童が宿題を得意に行えるように、学習カードを活用し、児童・保護者・担任間で日々の学習の振り返りを行っているようにする。 			
	慣学・力生向上に慣係等の学習状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆「学校の学習時間以外、一日どれくらいの時間、勉強をしますか?」の項目では、平日では65%、土日には71%が「1時間未満」の項目に当てはまると答えており、自主的に計画を立てて学習する習慣がつかない児童が多いと考える。 ◆「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか?」という項目についても、「あてはまる」は半数近く割合が低く、全国平均を下回っている。 ○「学校で他の友達と意見交換したり、調べたりするためにICT機器を使用している」の項目では、88%が肯定的に答えており、全国平均を30ポイント近く上回っている。 	○漢字と計算を中心とした基礎・基本のさらなる向上	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習における反復練習により、習得内容の定着を図る。 ・宿題による復習・繰り返し練習によって学力の向上を目指す。 ・放課後学習の時間を確保することで基礎・基本の一層の定着を図る。 担任・教科担任・授業運営システム教員及びがんばり学びタイム指導員との連携を密にし、進捗に応じた指導の充実をさらに図っていく。 ・ミラシードのドリルパークなどを使って、国語や算数の基礎基本の定着を図る。 			
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度の保護者アンケートでは、「進んで家庭学習をしている」の肯定的評価が75%と前年度の69%より増加しており、良い傾向が見られた。 ◆夜更(まで、オンラインゲームやSNS・LINEなどに依存し、長時間に及ぶなど、家庭でルールが守られていない傾向がある。 					
	校内研究の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究においては「タイが生まれる楽しい授業」をテーマに、主体的・対話的学びを大切に授業づくりを進めている。 ◆全国学力・学習状況調査結果の状況をふまえ、基礎基本の徹底・活用能力の育成、表現力の向上・問題解決に対する意欲の向上などについて更なる研究が急務である。 					
	校内研修の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○研究推進委員を中心に学力向上部・環境部を設置し、授業・学習環境等、子どもたちの学力向上への方策について研究を深めると共に、外部講師を招き、授業実践についての研修を進めていく。 					
	家庭・連携・携校種間の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○3年生での田植え、2年生での町探検、1年生での遊遊びなど貴重な体験をさせて頂いており、地域が非常に協力的である。 ○新1年生の下校の見守りや配補ボランティア、ミンボランティア、図書ボランティアなど、地人材を活用している。 ○生活指導・人権学習・英語学習などの観点から、中学校区で校種を超えて、授業を互いに参観し合い交流することを通して、児童の理解を深めている。 					